

国語学習プリント

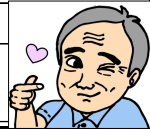
date : 年 月 日

学習内容:

初恋

氏名

年 組 番



初恋

島崎 藤村

まだあげ初めし前髪（りんご）の
林檎のもとに見えしとき
前にさしたる花櫛（はなぐし）の
花ある君と思ひけり
やさしく白き手をのべて
林檎をわれにあたへしは
薄紅（うすぐれい）の秋の実に
人こひ初めしはじめなり
わがころなきためいきの
その髪の毛にかかるとき
たのしき恋の盃（さかづき）を
君が情（なさけ）に酌（く）みしかな
林檎（ばたけ）島の樹（こ）の下に
おのづからなる細道は
誰が踏みそめしかたみぞと
問ひたまふこそこひしけれ

◎この詩の形式は

▽まだあげ初めし前髪とは

当時（し）（明治のころ）女子は十三、十五歳になると髪あげ（髪結い）をして、大人の女性となる成人式のような儀式 男子でいうところのは元服にあたるもの

▽花櫛とは

▽花ある君とは

▽薄紅の秋の実とは

①何のこと＝

②どんなイメージのつながりがあるか

▽ころなきためいきとあるが、この場合の「ころなき」とはどのような意味か

▽たのしき恋の盃を／君が情に酌みしかなとは、恋の状況を何の様子にかけて表現しているか

▽おのづからなるとはどういう意味か

おのづ＝自ず

▽誰が踏みそめしかたみとは
訳してみよう

※「かたみ」とはなにかを想像するとわかるよ
かたみ＝なごり（あとにのこされたもの）

▽係り結びをひきおこす助詞と、それをうけ、変化した語を書きなさい。

ひきおこした助詞＝
変化した語＝

▽詩の構成連の内容を選べ

- 第一連（ ） ア二人の恋が通じ合った喜び
第二連（ ） イ少女に対する恋心の芽生え
第三連（ ） ウ二人の愛とその深さの証明
第四連（ ） エ少女との出会いとその印象